

Stained Glass

ステインドグラス



その可能性を  
考える企画展示

Surprise

立花江津子氏作：日光（明王山普門寺）

そこに描かれた造形が太陽の光を浴びて輝きだす。色づいた透過光が周囲の空間を彩り、その場を幻想的な世界に変えていく。これが絵画や工芸にはないステインドグラス固有の魅力です。

キリスト教会などでよくみかけるステインドグラス。でも、この伝統技法はもっと多様な形で現代の私たちの暮らしを豊かにできるのではないか。例えば、上の写真は寺院の本堂。仏教の空間をしっかりと引き立てていました。私たちの研究室ではこのようなステインドグラスの多様な可能性を考えるため、ステインドグラス作家・立花江津子氏の協力のもと様々な実験を行っています。その成果を立花氏の作品とともに展示します。

2019

2.8 fri ▶ 9 sat 10:00~15:00

入場無料・出入自由

兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス「講堂」

主催：兵庫県立大学環境人間学部井関研究室  
協力：立花江津子氏（姫路在住ステインドグラス作家）

# プログラム

どなたでもご来場いただけます。アートや暮らしに興味のある方等、お気軽にお越しください。

2.8 fri 10:00 開場  
10:15 主催者挨拶：兵庫県立大学 井関崇博  
10:20 展示内容説明  
15:00 閉場

2.9 sat 10:00 開場  
10:20 展示内容説明  
11:00 演奏実演  
11:30 デザイン活用図案講評 & 表彰  
15:00 閉場

## 立花江津子氏について

姫路生まれ。武蔵野美術短期大学で舞台美術を学んだあと、姫路校外の仁豊野の修道院でステインドグラスと運命的に出会う。それを契機に、ヨーロッパに渡り、ベルギーのセント・ルーカス高等美術研究所（現ルカ芸術大学）で学び、首席で卒業。その後、姫路にアトリエを構え、40年にわたる作家活動の中で250を超える作品を制作。代表作はパルナソスホール（姫路）、神戸松蔭大学チャペル、金城学院講堂のステインドグラス。

## 4つの問いから考える

ステインドグラスの活用方法を考えるために、ステインドグラスがおかれる「空間・時間」と、そこに描かれる「デザイン」に着目し、以下の4つの問い（Question）を設定しました。そして、できることならステインドグラスらしさが生かされる方法を模索したいと考えました。では、ステインドグラスらしさとは何か。この問いについても検討を重ねました。

### Question 01

どのような空間・時間に  
あったらいいか？

写真展示

人間の暮らしや人生の行事、社会の様々な営みの中で、ステインドグラスがあったらいいと思う空間・時間をみつけます。そして、実際に仮設置してみた写真を撮り、会場に展示します。



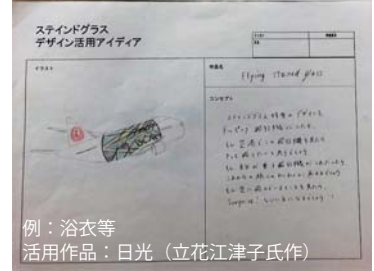
例：学校保健室  
作品：幻花（立花江津子氏作）

### Question 02

デザインを製品に活用  
するとすれば？

図案展示

ステインドグラスのデザインをどのような製品に活用できるか、どのような場面で利用するか、そのイメージ図を作成します。今回は立花氏のデザインを活用するアイデアを考えました。



例：浴衣等  
活用作品：日光（立花江津子氏作）

### Question 03

どのようなパフォーマンスが  
相応しいか？

映像放映 & 実演

ステインドグラスの幻想的な空間でどのようなパフォーマンスがふさわしいのか。映像に撮り、上映します。また一部を下記日時に実演します。

♪ 音大生によるフルート演奏  
2月9日（土）11時～

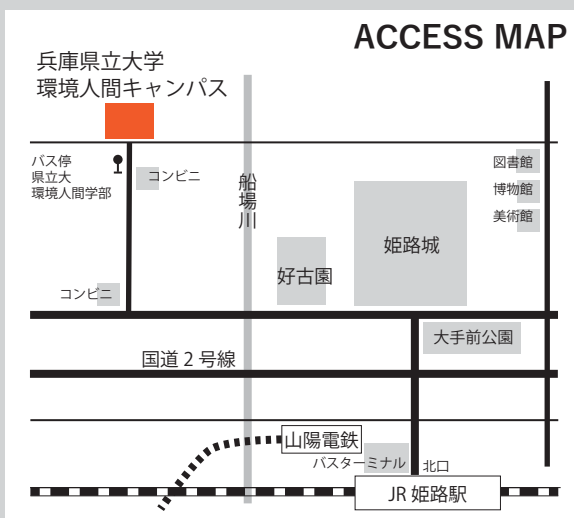
### Question 04

新しくデザインを描き  
下すならば？

図案展示

ステインドグラスの特徴を生かすものであり、かつこれまでにない新しいデザインを描くとすればどのようなものが考えられるか。制作のコンセプトを掘り下げた上で、実際に下絵を書き、会場に展示します。

## 会場 & アクセス



姫路駅北口バスターミナルより神姫バス（8、9、11、12、13系統）に乗り、「県立大環境人間学部」下車、徒歩2分。

## 講堂（キャンパス東門を入ってすぐ右手）

旧制姫路高校の建物で、1926年竣工。国の登録有形文化財に指定。足を踏み入れると大正時代にタイムスリップしたかのような感覚におちいります。展示とともに、歴史的な建築物についてもご鑑賞ください。

